
魔法少女リリカルなのは～所謂テンプレ物語～

識

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜所謂テンプレ物語〜

【Nコード】

N7896Y

【作者名】

識

【あらすじ】

目を覚ますと真っ白な空間で神様が土下座してた

「あなたはまだ死ぬ運命じゃなかったの」とか宣って

所謂テンプレ、主人公最強系、ご都合主義、亀更新、そういうのが苦手な方はブラウザバックを、見てやってもいいよという方、少しでも楽しんでもらえるように頑張りますので見捨てないでやってください

死んだと思ったら転生出来た・・・(前書き)

前作は作者の文才のなさで断念してしまいました、理由としては皆を救おうとすると、弥生ちゃんがとてもチートになってしまっからです転生者でもないのにそれは無理だろうということ削除しました、続きを楽しみにされてた方には申し訳ありませんが、全員救済はこちらのテンプレオリ主にしてもらおうと思います

死んだと思ったら転生出来た・・・

「ん？ 此処は？」

目を覚ますと真っ白な空間に僕はいた、僕は子供を助けて車に轢かれたはず、奇跡的に助かったとしても四方八方真っ白な空間にいるという事はないはず……ということは、所謂テンプレってやつかな？

「い、意外と落ち着いてますね」

そりゃあ、死因がはっきりしていて真っ白空間って言ったたら二次小説好きなら落ち着きもするかと

「な、何で喋ってくれないんですか？」

え？ だって神様で思考まで読めるってやつですよな？

「やってみたかったのに……っとそれはともかく！！ すいませんでした！」

えーと、僕は何に対して謝られているのでしょうか？ それと、謝るなら流れで謝るって失礼じゃありません？

「そ、そうですね、失礼しました、もう一度謝らせてください。すいませんでした」

あっはい、その謝罪受け取らせて頂きますね、ってそれはどうでもいいんですが、僕は何に対して謝られているのか理由を教えてくださいませんか？

「実は、あなたの書類にペンを落としてしまって、あなたの書類が破れてしまいました……」

それで僕が死んでしまったと

「はい」

それで、僕はどうなるんでしょうか？ テンプレ通りに転生ってことになるんですか？

「そうですね、あなたが望むなら特典付き転生でもいいと上に言われてます」

f m f m特典というのはどういったものになるんでしょうか

「あなたが生きるはずだった残りの寿命を使って能力等を転生した後のあなたにつけることになります」

なるほど、残りの寿命を……妥当ですね

「納得してもらえてよかった、時にはお前らのせいなんだからデメリット無しで能力つけるといいう方もいて……」

転生とその行き先を決めさせてもらうことさえ出来れば、それで謝罪としての誠意は見せてると思います……

「そう言っていただけとありがたいです、しかも、そういう人に限って物語を悪い方向に持って行く方が多いんですよ」

うわぁ、そうはなりたくないですね、反面教師にして、少しでも良い世界になるように頑張りましょう

「そう思ってるうちは世界は悪い方向に向かったりしないので、その気持ちを大切にしてくださいね」

はい！ 所で、行く世界は何処なんですか？ 能力を決めるにもそれ次第で欲しいものが変わりますから

「今のところ魔法少女リリカルなのはの世界を予定していますが、他に行きたいっていう場所がありますか？」

いいえ、一番好きな世界です、もしかして知ってたんですか？

「ええ、一応調べたんです、できうることをしておこうと思って」

それはありがとございます、それじゃあ能力を決めてもいいですか？

「はい大丈夫です、どんな能力がいいですか？」

では、頭脳や生活スキルなどを含めたありとあらゆる素質をください、出来れば上限なしで

「えーと、それだと三十年になりますかよろしいですか？」

意外と少ないんですね五十年分くらいになると思っていました、まだいけますか？

「素質だと、個人の適性や努力量、その他諸々によって左右されるから、多少少ないですよ、まだ四十年分ありますね」

そうなんですか、後はありとあらゆる面で最強の家族、僕の素性も知っている家族をください

「了解です、これは二十年分ですね」

後二十年ですか、では僕を女の子にしてください、容姿はお任せします

「それで三年ですね」

では精神と時の部屋みたいなものをください、あと中にいても成長しないようにしてください、周りに不信感を与えたくないのです

「精神と時の部屋ですか、別荘って言う人が多いのに……それで五年ですね」

精神と時の部屋なら一日で三六五日じゃないですか、別荘だと一日で二四日ですよ？ 明らかにこっちのほうがお得じゃないですか、後は原作キャラのアリサ・バニングス、月村すずか、アリシア・テスタロッサの三名にリンカーコアを、なのはさん達と同じくらいの素質をつけてください

「なるほどー、一人四年分で合計一二年ですけど大丈夫ですか？」

大丈夫です、一応の確認なんですけど、原作改変ってしちゃっても大丈夫なんですか？

「はい、問題ありません。あなたがどんな改変をしてもあなたのいた世界の物語は変わりませんから」

それを聞いて安心しましたこれで、気兼ねなく全員救済できます

「全員救済ですか、言うのは簡単ですけど生半可な覚悟では成し遂げられることは出来ませんよ？」

分かっていきます。でも分かっているのに見過ごすなんて出来ませんから、難しくてもやりますよ

「そこまで言うのでしたらもう何も言うことはありません、頑張ってください、私にはこれしか言えません」

ありがとうございます、少なからず原作とは関わるんですよ？
そうじゃないと今までの会話全部無駄ですし

「あなたの行動次第ですね、聖祥大附属小学校に入学すれば確実に原作に関わりますが、別の学校だと、関わりが少なくなりますね」

聖祥に入れるだけの家庭ではあるってことですか？

「はい、それは確実です。あなたが望めば別なんですけど」

流石にそんな事望まないですよ。さて、聞きたいことも聞けたし、あんまりのんびりとしてられませんか

「そうですね、私も仕事がありますし、残念ですけどお別れです…
…その扉をくぐればあなたは転生します、良き人生を歩まれることを心よりお祈りします」

色々ありがとうございます、それでは「行ってきます」

そうして僕は光りに包まれた

く神サイドく

「最後の最後に声をかけていくなんてずるい人ですね、それに行つてきます、ですか……少し最高神様をお願いしないとじゃありませんね」

死んだと思ったら転生出来た・・・（後書き）

という訳で所謂テンプレ物語第一話お送りさせて頂きました

主人公のチートは、チートはチートでも努力系チートです

ちなみに主人公以外のチート転生者も出す予定です、フルボッコに
される予定です……

転生しました（前書き）

一話掲載から1週間経ちました、遅すぎる気がします。第2話上げさせていただけようと思います。

それでは、少しでも楽しんでいただければ幸いです。

転生しました

皆さんこんにちは、僕の今世の名前は皇葵すめらぎあおいらしいです。そして、僕が生まれてから四年、これからお姉ちゃんによる修行が始まります

お姉ちゃんの名前は皇茜すめらぎあかね、この人が僕の要求した最強の身内なんです。が・・・僕を転生させたあの神様なんですよね、最初聞いたときは凄く驚きました。なんでも、お前が責任持つて行ってこい、らしいです。そんな感じで神様やめて人間になっていいんですかね？

まあそれはともかく修行頑張って行きましようか！！

「修行のことだけど、最初の十年で葵ちゃんには女の子らしさと家事全般を習得してもらいます」

「それはいいんだけど、何故そこからなの？」

「その体に少しでも慣れてもらうためだよ、男の子の体とは色々と違う部分もあると思うから」

「わかった、頑張る」

〈少女修行中〉

「よしっ、これで第一の修行終了だね」

「ありがとうございます」

家事全般といっても家事の粋を超えて業者とかプロと違ってレベルで覚えさせられましたけどね

「次は魔力を感じる練習かな」

「はいっ」

〜五時間後〜

ん？ このなんだかあったかい感じ、これが魔力かな？

「ざんね〜ん、それは気よ」

じゃあ、この冷たい感じの・・・

「それは霊力ね」

む〜う、じゃあ、この間の何とも言えない感じの感覚の？

「うん、それぞれ、それが魔力よ、じゃあその感覚をつかんだらそれを外に出すことから始めましょうか」

「はいー」

～二時間後～

「で、出来た……」

「なら、それで攻撃を受け止めてね」

「はいっ」

「じゃあ、いっくよ～」

ドーン……

「きゅ～」

「あらら、受け止めきれなかったか、起きて～」

～一時間後～

「はっ！」

「やっと起きた、受け止められるまでずっとこれね？勿論どんどん強くしてくから死にたくなかったら受け止めるか逸らしてね？」

「は、はい……」

死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ死ぬのはイヤ

〈少女防御中〉

し、死んじやうかと思った、お姉ちゃんの最大出力の砲撃を何とか防ぎきつて、合格をもらいました

「よく耐えたね、抜くと思ったんだけどな、まあそれはいいとして、次は何に適正があるのか調べるよ」

「ちよつと楽しみかも・・・」

「これは今後の事にも大きく関わってくるから、かなり重要なものよ適性がないのにいつまでも修行してても時間の無駄だしね」

「ちよ、ちよつとプレッシャーが・・・」

「まあ気楽に行きましょ 早速一個ずつ調べて行きましょうか」

〈少女検査中〉

「葵ちゃんに適正があつたのは、ビット操作、誘導系、直射系、バスター、ブレイカー、回復、補助系、槍、棒、合気道、鉄扇、情報系、特に適正が高かつたのが回復と補助ね」

「回復と補助、思いつきり後衛タイプだね」

「そうね、回復と補助、ビット操作とバスターとブレイカーを覚えれば一流のフルバックかセンターガードになれるわね」

「全部覚えきれるかな？」

「大丈夫よ、体に覚えさせるから、後は情報も使えるようになれば色々役立つわね」

何それ怖い、私のためってわかっててもちよつと尻込みしそう、それにお姉ちゃん本気だし・・・
お父さん、お母さん、どうやら私はしばらく生と死の境界に立たされるようです

転生しました（後書き）

はい、という訳で第二話お届けしました。
少しでも楽しんでいただければ幸いです。

ではまた次回お会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7896y/>

魔法少女リリカルなのは～所謂テンプレ物語～

2011年12月14日00時54分発行